

# 2025年 河川技術シンポジウム オンライン報告会

～過去を礎に未来を拓く～

趣旨説明

# 土木学会水工学委員会 河川部会とは？

- 河川部会は1997年度に土木学会水理委員会(現水工学委員会)に発足した部会。
- 河川部会は、河川技術を、「河川(水・土砂・物質循環系を含む)と人間および生物との関係をより良いものに変えていくために河川を賢く制御する実践的技術の総体」ととらえ、河川技術の分野において、産学官を問わず広い裾野から研究開発や技術検討が精力的に行われ、それが河川や流域の現場に広がり、現実を変え、そのことが国民、流域住民から肯定的に認知され、河川技術の発展とその現場への適用を促進するという好循環の形成に貢献することを目指しています。
- そのために河川部会は、既存の三つの部会(基礎水理部会、環境水理部会、水文部会)との連携協力を推進するとともに、学術と技術との橋渡し、官・学・民の連携、従来の河川工学以外の河川にかかわる学術との学際領域への展開など、河川の技術に求められるさまざまなインターフェース的側面を追求しています。

# 官・学・民から成る約30名の部会のメンバーで運営

## 官

### 行政・国研・行政補間機関

官のメンバーは、国土交通省本省および国総研、土木研究所など、河川行政の“政策・技術行政の中核”が多数参加。

#### ◆ 官の役割

- 河川行政・政策立案に関わるメンバー
- 技術基準、河川整備計画、環境配慮など制度面と実装に強い
- 研究と行政実務をつなぐ橋渡し
- 政策・制度・実務を担う中核的な人材が多いのが特徴

#### ◆ 主な所属

- 国土交通省(河川計画課、水管理・国土保全局、河川環境課)
- 国土技術政策総合研究所(国総研)
- 独立行政法人水資源機構
- 河川情報センター 水源地環境センター リバーフロント研究所 国土技術研究センター

## 学

### 主に大学

学のメンバーは、理工系(特に河川工学・水文学・防災)を専門とする大学教員が中心。

#### ◆ 学の役割

- 河川工学・水理学・水文学・河川環境の研究者
- 関係する部会からの交流委員も
- 最新の学術知見・技術提案
- 若手育成と学術界の視点を提供
- 研究のフロントラインから専門知識を提供、現象の解明、研究と実務の谷間を埋める応用研究

- ◆ 河川管理の現場の課題、最新の河川技術について、官・学・民の垣根を越えて、情報を共有し、議論する場としての、河川技術論文集、河川技術シンポジウムを運営。

- ◆ 年に一度、最新の河川技術、現場の情報、河川管理のあり方について論文・総説・報告を持ち寄り、全国の河川技術者・河川管理者が集まって情報交換・議論する「河川技術シンポジウム」！ 毎年6月開催

## 民

### 建設コンサルタント・民間企業

産のメンバーは、大手建設コンサルタント・建設会社・研究系企業を中心に構成。河川の計画・設計・モニタリング・防災など実務に強いメンバー。

#### ◆ 産の役割

- 現場実装や設計・施工に関わる技術のプロ
- 実務に基づいたフィードバック
- モニタリング・データ解析・委託研究などの実行部隊
- 実力のある民間技術者が幅広く参加。最前線の知見、最新の技術情報に強い。



# あなたと河川技術シンポジウムとの距離

河川技術の“今” 河川研究の面白さ  
河川管理の課題・問題意識

オンラインで聴講しよう！  
会場にいてみよう！



シンポジウムでの議論に参加する！

河川技術シンポジウムに参加する

最新の河川技術／現場実践の知見



運営側で参加する！

自分も発信する側に！



河川技術論文集の一読者として



河川技術論文集に投稿する・発表する



# オンライン報告会の趣旨

- 河川技術シンポジウムでは、河川技術論文集の投稿論文に関するポスター・口頭発表に加えて、特定のテーマについて参加者全員で議論を進めるオーガナイズドセッション(OS)を開催しています。
- 毎年開催されるOSは、河川管理と河川技術の現場実装の最先端や全国の実践事例、問題意識を共有する場として重要な役割を担っていますが、議論の時間をより充実させることが望まれてきました。
- そこで、OSの議論をさらに掘り下げて、河川部会として継続的に議論すべき課題を広く議論し、河川技術論文集及び河川技術シンポジウムにおける議論の継続性の確保と発展的な展開のための場として、河川技術シンポジウムオンライン報告会を企画しました。

- より多くの河川技術者に、河川技術シンポジウムに参加していただきたい！
- 河川技術シンポジウムを、「河川技術の今」が分かる学びの場としても高めていきたい！
- 河川技術論文集に、より多くの論文を投稿してもらいたい！チャレンジしてもらいたい！



# オンライン報告会プログラム

日時:11月21日(金) 17:30 – 19:30

## ◆趣旨説明

(原田守啓 岐阜大学) 5min

## ◆これまでの議論の歩みと河川技術の進歩

(竹村吉晴 中央大学) 15min

## ◆2025年OSを振り返る

OS1:水災害多発時代の河川技術のあり方

河川シンポ・河川技術論文集で

OS2:変化する時代の河道管理

私たちは一体何を議論してきたのか？

-順応的管理による持続可能な治水と環境の両立を目指して-

(久保宜之 国交省水管理・国土保全局 河川計画課) 20min

(三浦 心 建設技術研究所) 20min

継続的に議論すべき論点は？

## ◆多摩川における河道管理の実践と今後の課題 ~治水・環境・利用の調和を目指して~

(劔持嵩之 関東地方整備局 京浜河川事務所 流域治水課長)15min

## ◆意見交換

(竹村／柏田仁 東京理科大学) 30min

## ◆次号論文募集と特定テーマ案発表

(原田)

## ◆閉会挨拶

(堀江克也 いであ)